



めじかじ通信

航海-47

めじかじ市民記者ネットワーク

市民記者の目から見た「こもろ」を発信していくページです。ちょっとへんてこりんな名前「めじかじ」。意味は「目＝目」と「じ＝耳」を使って、発見への「かじ＝舵」をとろう。どうぞ期待！
またガッツのある取材記者を募集します。

▼問い合わせ先 企画課 秘書広報係

歴史好き集まれ、ブルーベリー栽培農家は郷土史愛好家

小林孝吉さん（88歳） Ⅱ 諸Ⅱ



ブルーベリー畑に立つ小林孝吉さん

畑の周りにはシュウメイギクが植えてある。この花の別名はキブネギク。諸の氏神の本宮、京都の貴船神社に群生していた。本宮のキブネギクが乱獲により激減したと知った小林さんは、遠い昔に村に移植されて本来の姿を保つ八重の花を里帰りさせた。

味わったことも見たこともないブルーベリーの栽培を思い立ったのは、小林孝吉さんが会社勤めを辞めた時だ。もう34年が経つ。周囲は「無理をするな」と反対し、亡き妻だけが賛同者だった。この地の気候には向かないと言われ、水田からの転作については「先祖を泣かすことだ」とまで言われた。

うになって、見学者を迎えた。今では畑に30年物のブルーベリーが300本育っている。うれしかったのは、後進のブルーベリー農家に「あなたに教えてもらって助かった。お陰で子や孫にやる小遣いに困らない」と言われた時。そして長女の美代子さんが、立派な後継者になってくれたこと。

信濃町にブルーベリー畑があると知って夫婦で見学に行き、変わった木にいつそう興味がわいた。まっすぐな「ゴボウ根」が無く、敷かれた樹皮のチップ中いっぱい、ひげ根を伸ばしていたのだ。「そうか、土より木が好きなんだ」と気づいた。それ以来、根を張りやすい間隔、深さや肥料に工夫を凝らしてきた。5年後には出荷ができるようになった。

幼い頃、村の語り部の話を聞いて育った孝吉さんは、長じて歴史のことで、頭がいつぱいようだった。小林家には先祖が書いた、金比羅参りの旅行記が残されている。孝吉さんは石碑の解説をするが、娘の美代子さんも拓本を取って協力している。「何でも知ろうやってみよう」は小林家の人に引き継がれる気質のようなものかも知れない。



小林さんの書棚。小学校で使った教科書や、兵役についた時の「つはもの手帖」なども整理されている。「つはもの」は「つわもの」、手帖は兵士に配られたもので、小林さんは日記帳にしていた。

孝吉さんは最近、来客用に座り心地の良い椅子を買った。歴史談義をしたくて、誰か来る日を楽しみにしている。もちろん「老若男女を問わない」そつだ。（取材・文 佐藤 万千子）

ゆらさんの四季の薬膳

まだ白いご飯？

艶やかな新米が食卓に並ぶ季節となりました。白いご飯へのこだわりは、女性よりも男性のほうが強いのではないのでしょうか。ある薬膳料理研究家が、わが子への食育として、「ご飯は色のついたものを食べることを挙げていました。色のついたご飯とは、玄米や雑穀入りご飯のことです。平安時代以来白米信仰の根強い日本で、環境の変化に負けず健康で生き抜くためには、雑穀パワーこそが必要という親の強い思いです。」

ところで小諸市のキャッチフレーズは「雑穀の里」と知ってました？ 粟、きび、赤米、黒米なども収穫は秋です。雑穀にどんな効能があるかというところ、粟は消化不良の改善、コレステロール値の抑制と改善など。きびもコレステロール値の抑制の他に口の乾きや咳に効果が。赤米は貧血や便秘、美肌など。黒米は老化防止やがん予防に効果を発揮します。血糖値の上昇を抑性する、白米+雑穀習慣をぜひ子どもたちに伝えてください。

（国際中医薬膳師 小清水由良）

